

令和3年度卒業生・修了生調査協力者会議

議事要旨

開催日時：令和3年12月4日(土) 10:00～11:32

開催場所：Webex Meetings を用いたオンライン開催

出席者：【卒業生・修了生】

課程長・専攻長からの推薦者19名（平成23年度～令和2年度の卒業生・修了生）

【本学】

吉本昌広総合教育センター長、寶珍輝尚総合教育センター教育評価・FD 部会長 外 25名

陪席者：学務課職員3名

1. 開催趣旨

本学の学部卒業生、大学院修了生を本学に招へいし、授業内容・方法や学生生活等に関する事項について調査する。卒業生・修了生の体験に基づいた意見を参考にすることで、今後の本学の教育内容・方法の改善に役立てる。

※冒頭、吉本総合教育センター長から挨拶の後、寶珍教育評価・FD 部会長より本学出席者の紹介、卒業生・修了生出席者の自己紹介及び近況報告が行われた。

2. 意見交換要旨（●は卒業生・修了生、○は教員）

※別紙アンケート集計表を参考に、意見交換を行った。

【教育プログラムについて】

○本学では受験人口減少対策のための改革を断行中であり、科目の統廃合を実施している。廃止すべきでない科目、また新設すべき科目について意見を頂きたい。

（英語科目）

○まず英語から、良かった点、改善点等の意見を願います。本学はSGUのため、英語に力を入れているが、どう感じているか。

●学部の生体分子工学時代、1回生の時だけ英語必修だった。年次が上がるにつれ、英語に触れる機会が減ったが、学部4年間必修にするなり、英語を継続できる環境があればよかった。

●大学時代、英語の講義に触れる機会があったが、英語力が圧倒的に伸びたのは研究室での留学生との2年半にわたる交流だった。その中でコミュニケーションが取れる程度にまで伸びた。これだけ留学生数が伸びているので、低学年時から、全学生が留学生とコミュニケーションを密に取れるような機会をつくってほしい。

●留学生との交流は大きい。スピーキングテストを受けたとき、留学生との交流がほとんどなかったた

め、話すことに戸惑った。学部生の中に留学生との交流の機会（英語を使わざるを得ない機会）が増えれば英語力も伸びる気がする。

●大学院時代に先端 F では上海の大学等との交流があり、半強制的に全員が参加していた。学部時代からそのような機会があればみんな伸びるのかなと思う。

●他の方と同様に、学部時代の英語は TOEIC 得点アップが重要で、コミュニケーション力は重きを置かれていなかった。留学した際に、TOEIC で点を取れても実際に話せなかった。実際に話せる力をつける授業が必要。

●議論の方向性が分からないので確認したい。大学としては、外国人と交流する力を伸ばすのか、それとも学会発表や論文読解力等アカデミックな英語力を付ける方を目指すのか。

○私見だが、両方かと思う。技術系大学なので、英語論文を読んだり、英語で発表したりする力は必要。また、日本だけでなく、海外で生活することも多いので、テクニカルなことのほかに一般生活における英語も必要かと思っている。

○今までの意見は生活していく上での英語力向上という視点が多いが、研究や開発を行う上での英語力向上という面でもご意見いただきたい。

●大学生レベルはアカデミックでよい。学年の早い時点で英語論文を輪読し、意見交換しても良いかと思う。

●3年次編入したのだが、こうした英語教育は恩恵を受ける機会がなかったという印象。現在のプログラムがどうなっているかは知らないが、電子システムでは一般教養科目として30単位認定されていたので、ほとんど一般教養科目を受けずに院に進学した。編入生は編入から1年後の4回生から研究室配属されるので、3年生時点ではGPAを気にして英語は受けづらい。これらの少数派の学生も受けやすい環境にしてほしい。ある程度強制力のある形でもいい。

○編入生の英語履修は、実は今、問題になっている点である。編入生が英語科目を受講する方法を検討しており、単位を取ってもらうことも考えているが、必修化して落とすと即留年、ということになってしまい、勧められない。強制力を持たせることについてどう考えるか。

●必修科目化し、落としてしまうと、たった1年しかチャンスがないことにより、4回生の卒研着手ができなくなるのでは困る。受講は強制でもいいが、3回生で落としても、卒研着手しつつ4回生で再チャレンジできる(卒業までに取ればよい)という仕組みではどうか。

○卒業までに取れば良い、という方向で検討したい。

(教養科目)

○次に教養教育について

○特に、三大学教養教育についてのご感想をお聞きしたい。抽選に漏れ、一番取りたい科目を取れないことや、やりたかったことなど。

●いま、大学の教養科目はオンラインなのか。オンラインでも抽選があるのか。

○オンラインで実施しており、抽選もしている。定員を無制限にしてしまうと、レポートの採点等で教員側がパンクするため、制限を設けざるを得ない。

●対面の頃は一般教養をこっそり後ろから入って聞いたりもできたが、興味のある人は単位に関係なくどの科目でもオンラインで参加できるようになっていればいいと思う。

○私見であるが、受講登録していない科目に参加することは本来好ましくない。とはいえ、面白い科目をやっているということが世間に広まるのは悪いことではないのではないかと思う。

●教養科目のジャンルごとの要件がわかりにくい。1回生の時、見づらく理解に難儀した。履修要項等にわかりやすい形で書いておいてほしい。

○ジャンル分けについては、要件表上で分けることをなくす方向で今検討している。それとは別に、各ジャンルの説明は書いておいた方が一年生にはわかりやすいのではないかと思う。大学としてはジャンルを偏らず取ってほしいという思いはある。

●教養科目について記憶に残っているのが、京都の文化、伝統についての授業。そういう体験ができる科目を充実してほしい。というのも、せっかく京都の大学に通っていたのなら、企業に入り、京都以外の地で人と接する際、大学時代の学びの環境について企業外や海外の人に説明できるようにしておきたい。こうした科目はなくさず、充実させてほしい。

○この科目は三大学科目の特色的科目なので、貴重なご意見としてありがたく受け止める。

(リーダーシップ科目・知財科目)

○次に教養のうち、リーダーシップ、知財に関する科目についてご意見をいただきたい。

●現役時代にはなかったように思うが、リーダーシップ科目はいつ頃から始まったものか。組織内でどのように動くかというのは将来的にも重要。学生への当該科目の告知も重要。

○科目は3, 4年前から開講しているはずだが、告知が足りていない。学生への告知をしっかりとしていきたいと思う。

●リーダーシップについては、科目の存在は認識していたが、学生の人数が少なく、敷居が高い印象で参加しなかった。まずは受講人数を増やすべき。

知財については、就職後は必ず使うので、企業で研修を受けるはずだが、学生のころから知財関係の法律知識を習得していると企業で有利になる。特許を書くなどの応用ではなく、基礎的なところを必修科目にしてはどうか。

(その他教養科目について)

○そのほか教養科目についてご意見があればどうぞ。

●化学系でも、研究開発の分野でシミュレーションやデータ活用した開発が企業の中では増えてきている印象。情報科学を効率的に使った開発方法、MI(マテリアルインフォマティクス)を使うとどういうことが出来るのか等について、大学で教えてもらえるのもいいと思う。大学時代に広く浅く様々な種類の分野の技術や学術内容に触れるのはとても重要。企業に入って深い開発を行う際に、他(多)分野の知識を取り入れた開発方針を出したり提案したりできるため。広く浅く多(他)分野の内容を紹介するものがあれば良い。

○全国的な動きとしてデータサイエンス、AIのリテラシー教育推進が求められており、本学でも今年度から試験的に始めている。シミュレーション、多(他)分野の知識という面もやっていきたい。

●教養科目ではないかもしれないが、日本語で研究報告書を書く技術に関する授業があっても良かった。学部時代、どう書いて良いのか分からず下手な日本語を書いていたが、実験に先立ってそういう授業があると、それを実践する機会が後々になってから控えているので、役立つ。

アメリカではテクニカルライティングの授業があるらしいが、日本語でもあればと思う。

●学部時代に思ったのは、Word や PowerPoint (PPT) に特化した授業の必要性。MI の今、PPT を利用したり、Word を使ったりしているが、利用するにあたって自力で使い方を修得し、設定している状態。講義としてある程度高度な活用方法の指南を受けられれば、他の授業や活動でも効率よく取り組めると思う。

●教養科目について、よりマクロな視点での講義があったらと思う。今までの話を聞いていて、多(他)分野の知識に触れるというのは共感できるが、そこで1回生のころからものづくりの仕組みを学ぶ機会があれば良いかと思う。具体的にイメージできるのが今は就活時期だが、それだと遅すぎると感じた。1回生のうちにもものづくりの現場や仕組みをイメージできるようになれば、大学中に学びたい科目などにも結び付くかと思う。また、より時事ネタ、世界的な話題や世の中の問題を教養科目として学べれば、学生自身の将来展望もしやすくなる。

○SDGs など、世の中のことを学ぶ機会の充実は大切であり、そのような方向に変わるべきだと思う。多

(他) 分野の知識やものづくりの仕組みを学ぶ機会については、本学はものづくり系の科目も設置している。これがうまく機能していないということかもしれない。担当した印象では1/3の学生は喜ぶが、その他の学生は自分の専門分野を勉強したいと不満を持っている様子。

●私ものづくり科目を履修したが、レポートを出せばOKという状態で、寝ていたり他のことをしていたりする学生も多く、あまり機能していなかった様子。ものづくりセンターで実際に手を動かす科目は実践的で、皆真剣に取り組み、学びにつながった。体験型の科目にしていけば身になると思う。

○多(他) 分野の知識や技術を学ぶ講義については、自分の分野についての技術がある程度確立している、3年次くらいでやるのが良いという考えもあるが、そのあたりはどう考えるか。

●学年を変えたところで座学では効果が得られないのではないかと。しっかり時間を取って、集中講義の形でいろいろな分野の人を集めて、講師からの一方向ではなく学生間で取り組むなど、実際に体験させるという形にした方が良いかと思う。

●『ものづくりと造形科学』という授業を取ったが、楽しかった。座学は不要という話も出ていたが、院の『高等教養セミナー』のように、自分で調べて発表するという授業形態でもいいのかと思う。

●企業で工場見学するなどのチャンネルを大学が用意し、学生が調べてレポートを書くというのも良い。

(専門基礎科目)

○次に専門基礎科目(数学、物理、化学、生物等)についてご意見をいただきたい。

●専門的内容になるが、研究室配属前に、一般的によく使われる機器(液体クロマトグラフィなど)の取り扱い方法について知る機会がなく、研究室配属後に知ることが多かった。それらを扱う動画などを配属前に見るなどしていると、飲み込みも早かったかと思う。

●父が京都工芸繊維大学の同一課程出身だったが、父の頃はあった製図の授業が現在の化学系ではなくなっていた。企業で図面を見る機会も多いので、図面の読み方くらいは授業で扱ってほしかった。化学系の学生実験内容は充実していたが、物理系実験はあまり幅広くなかった気がする。機械系、電気系の実験はするものの、原理をしっかりと理解するには至らなかった。課程・専攻関係なく、化学、電気、機械、図面等は、どの課程においても学べる方がよい。

●数学に関して、応用数学的な授業があると嬉しい。研究していると、自分の分野に数学を応用して取り組むことが必要だったりするため。数学と工学の橋渡しをしてくれる授業があればよいと思う。

○応用数学の授業はあるが、橋渡しとして機能しているかは不明確。調べて対応したい。

●デザイン分野では、学部一年、二年のころ、数学、化学、物理などの授業を必死でうけていたものの、これらの分野は入学時の興味とは方向性が違い、また、学年が上がっても活用できなかった。頑張った割に報われないのが勿体なかった。その分専門や好きな分野に時間をかけたかった。

●学生実験の内容を座学で習った講義の流れとリンクさせると印象に残りやすいと思う。座学で習ったことを、時間を空けずに実験で経験できれば記憶に残りやすい。

●化学をしたくてこの課程に入ったが、2回生後期で物理学実験が必修だった。この時期は化学系の実験がなく、化学系の学生にもかかわらず、2回生後期では物理学しかできなかった。自分のやりたいことをやらずに、半年かけてまで物理学をしなければならないものか。

○今後議論したい問題である。特に工学系は、1年次は教養ばかりという状態、2年でようやく少し専門科目だが、1年で入ったらすぐに専門をやりたいという人も多いかと思う。

●『物理学基礎実験』の件は、学部時代化学系にいた身として疑問に思っていた。必修である必要性を感じなかった。応用化学系内でも色々ある中で、必修と選択必修の科目の(設定の)違いについて説明が欲しかった。

●分析機器に触れる機会を持つ科目があっても良かった。高額なものであり、研究室でしか持てないという事情もあるかと思うが、研究室配属後は、研究室内の機器にしか触れないので、配属前にもう少し広い分野の機器に触れられればと感じる。

【学生支援・大学の施設や設備について】

○学生支援・大学の設備、施設について伺いたい。トイレやネット環境への指摘があったが、そのほかにもあれば出してほしい。

●学内の中庭や小径の整備ができていない印象。雨の日にぬかるみがひどく滑りそうになることも。中庭もくつろげるように整備してほしい。

●駅近なので、周辺住民が駐輪場代わりに使用していたり、一般人が通行していたりする。防犯上も良くないので大学として対策してほしい。出身大学で犯罪事案などが起こらないようにしてほしい。

●コロナ禍前は、デザイン系学生の演習室は24時間開いていたが、情報工学課程では演習室がすぐ閉まり、活動ができなかったのが残念だった。D-1abの3Dプリンタが使えることも最近知った。学内の利用可能な設備について、もっと周知してもよいのでは。また、建物や研究室の設備や美しさも学内で差があると感じている。

○コロナにより建築、デザインの製図室も終日開室はできないことで不満は出ている。情報系も同様だ

が、コロナもあり踏み切れないところ。低回生のうちから交わりを持てる場所は必要であると考えている。また、分野にかかわらず、設備は同じように整えていく必要がある。

●図書館で論文検索すると、ほとんど読めないという印象。ほとんどがこの大学は対応していないと表示される。また、銀杏の数が多すぎる。匂い、衛生面でも良くない。人通りの多い場所に集中的に生えていて、問題だと感じている。

○図書館の論文問題については、電子ジャーナルの高騰などの問題があり、大学の財源も不足する中、難しいところもあるが、対応は必要。銀杏の話は他の方からもご意見が出ている。木が密接して生えているので対策は難しいが、考えていきたい。

【大学全般について】

○では、最後に大学全般についてのご意見を伺いたい。他に気が付いたことについてもお願いします。

●この大学に入学した決め手、本学の魅力は、ロボコンだった。京都にあるという点もそうだが、ロボコンや機械について実践的に学べるという特色が、各課程にあるというのが本学の魅力といえる。専門分野に関する特色があれば、本学の魅力につながる。

●本学の魅力は、京都に関する教養科目や、留学生との交流が多かった点。学部4回生時代に『知と美』を取ったが、日本人はあまりとっていなかった。この大学だからこそできる科目について告知したほうが良い。

●特色ある学生が多い。企業でも京都工芸繊維大学出身者は特色がある人が多い。活躍中の学生も多い。今後も特色ある学生を個性豊かに育ててほしい。強いて言うなら、より一層グローバルに活躍する機会も増えていく。新聞を読むなど、世の中の情勢を把握し、10年後、20年後を見据えて世の中を見通せる学生をつかってほしい。